



編集・発行

国立大学法人鹿児島大学男女共同参画推進センター 〒890-8580 鹿児島市郡元1-21-24

TEL 099-285-3012 E-mail: gender@kuas.kagoshima-u.ac.jp https://www.kagoshima-u.ac.jp/atsuhime/

鹿児島大学男女共同参画推進センターは、副学長（男女共同参画推進担当）をセンター長とし、女性研究者支援担当、ワーク・ライフ・バランス支援担当、女性医師等支援担当の3人の副センター長と学系（教員組織）や事務組織からの選出委員により、第3期中期目標・中期計画や「女性活躍推進法」に基づく行動計画等に沿って、ライフイベントを理由にした離職のない環境作り、さまざまな場面でのジェンダーバイアスによる悪影響を低減させるための取組等を行うこととしています。また、「各学系等における男女共同参画推進に係る方針等」策定（平成29-32年度）により、各学系等の実情に応じた取組を進めていただくこととしております。皆様のご理解とご協力をお願いします。

■男女共同参画推進センター副センター長の挨拶

浅野 陽樹 准教授（教育学系）

「仕事と生活が調和した多様な働き方を保障する職場環境の整備に向けて」

仕事と生活の調和は、就労意欲の向上、業務の効率化、また離職防止を含めた優秀な人材の確保といった観点から重要です。ワーク・ライフ・バランス支援担当者としては、「仕事のやりがいとともに、子育て、介護、趣味、自己啓発、地域活動といった生活の充実も大切にできる」職場環境の整備に努める所存です。

現状では、「育児期・介護期に限っては短時間勤務で働きたい」「働きつつも急な子どもの発熱に対応したい」「講義や実習を気にせず休業制度を活用したい」といった声が聞こえる一方で、「関係者に迷惑がかかるから」「代わりがないから」「望む制度自体がないから」といった制約から多様な働き方が困難な状況が散見されます。

このようなワーク・ライフ・アンバランスの解消に向けて、当センターでは、ジェンダーバイアスを含めた無意識のバイアスの低減、保育支援、保育所整備、相談室・休憩室の整備、育児・介護相談制度の充実、育児・介護休業制度の見直し等に取り組んでいます。本学の風土に合わせて現実的で有効な改善を実現するためには、関係者に限らず構成員皆様の当事者意識と意見が重要になりますのでご理解、ご協力下さいますようお願い申し上げます。

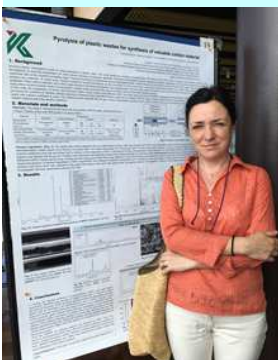


■Gender Summit 10 - Satellite Conference in Okinawa 参加報告

日本学術会議及び日本科学技術振興機構が主催するGender Summit 10 が2017年 5月25-26日に東京で開催、そのSatellite Conferenceが、5月29日-30日に ~Frontiers of Science in Asia-Pacific~ をテーマとして沖縄科学技術大学院大学で開催されました。

2011年に欧州委員会が中心となって発足したGender Summitは、科学とジェンダーという視点から世界の諸問題の解決を目指す国際会議です。これまで、欧州・米国・アフリカ・アジアで開催され、今回はじめて日本で開催されました。

沖縄で開催されたサテライト会議では、「九州・沖縄アイランド女性研究者支援ネットワーク」の参加大学の大学院生や若手研究者を中心にした30件のポスター発表があり、本学からOLESZEK SYLWIA 特任助教（理学系）と親泊 美哉子さん（大学院理工学研究科 博士後期課程2年）の2名が参加し、多様な分野の研究者との交流機会ともなりました。OLESZEK先生から、寄せられた参加後の感想を紹介します。



I think, the initiative to promote and implement gender equality is very necessary to achieve harmony in both professional and family life.

However, in my personal assessment, it seems that there is still long way to work out the consensus in terms of equal opportunities for professional development and promotion for woman scientists. Possibly the earliest education for young people in shaping their proper attitudes and behavior in improvement the gender equality is essential. "Be what you want" should embrace the idea of promoting the gender equality.



沖縄サテライト会議全体会の様子

■取組紹介 鹿児島大学附属図書館との連携企画「男女共同参画展」



関連本の紹介

6月から7月にかけて、国や鹿児島県の男女共同参画啓発期間に合わせ、男女共同参画関連本やジェンダーパネル（公益社団法人日本女性学学習財団所蔵）、啓発ポスター等を鹿児島大学附属図書館（郡元キャンパス）に展示し、ジェンダーアンケートも実施しました。男女共同参画展は、10~12月にも予定しています。



ジェンダーパネル等の展示

鹿大の女性研究者に
Close-up!

鹿児島大学で研究している女性研究者を紹介いたします。

山本 智子 教授 (水産学系)



- 1996年3月 京都大学大学院理学研究科博士課程修了
- 1996年4月 立命館大学理工学部非常勤講師
- 1997年4月 海洋科学技術センター (現海洋研究開発機構) 特別研究員
- 1998年4月 鹿児島大学水産学部助手
- 2007年4月 同 准教授
- 2016年5月 現職

★研究テーマは何ですか？

干潟や磯といった海岸から深海まで海洋の様々な生態系をターゲットに、そこに生息する底生生物(基質に付着する主に無脊椎動物)が種間でどのような相互作用を持ち、環境とどう関わり合っているか、そしてどのようにして多様性が維持されているのかを調べています。

★研究者を目指した理由

中高生の頃は東西冷戦の時代でしたので、政治的な対立がもたらす災いがある事、それは個人の考えや努力とは関係なく降りかかることを知り、人種や国籍、性別、宗教、経歴に関わらず、誰が言おうと正しいことは正しいこととして扱われる世界に魅力を感じました。

★研究の上で苦労されたことはありますか？

研究室でも職場でも、部署でほぼ最初の女性という状況でしたので、物珍しさも手伝って、あまり否定的な見方はされなかったと思います。ただ、自分の振る舞い次第で次に来る女性の扱いが変わるのではないかというプレッシャーは常にあったような気がします。解決法は、「仕事は楽しく」

★日頃のモットー

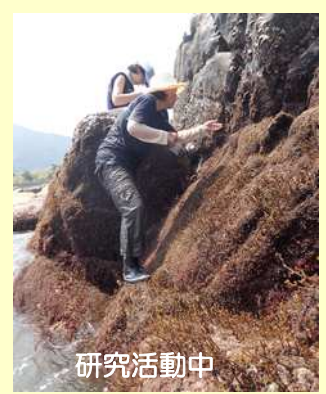
出すぎた杭は打たれないが、足下がふらついていると抜かれるかもしれないので気をつけよう。

★尊敬する人物とその理由

フランク安田
新田次郎著「アラスカ物語」の主人公ですが、明治時代にアラスカに移住し、エスキモーを率いて不漁が続く沿岸域から内陸へ移住しました。外国人である彼がリーダーとなった要因は絶対的な狩猟技術と交渉力にあったようで、能力を持って人を納得させるところに惹かれます。

★これから研究者を目指そうとする方へのメッセージ

意外と地味で決まり切った作業の繰り返しで、特にこの仕事に向いている「才能」のようなものはないと思います。
最後まで続けることができるかどうか、そのことが貴方の行き方として納得できるものかどうかだけがこの仕事につくために必要な条件だと思います。



研究活動中

■医学系における男女共同参画推進

医学系専任教員199名中、女性教員は56名(平成29年7月1日現在、退職者含む)であり、その割合は28.1%となっております。この値は、学内の部局の中で最も高く、大学全体の女性教員の割合16.2%と比べてもかなり高いことがわかります。また昨年度の医学系における女性教員の割合は25.5%(女性51名/全体200名)であり、今年度はさらに女性教員が増えていることがわかります。この医学系の高い女性教員割合には保健学科の寄与が大きく、保健学科単独では、女性教員割合は54%にも達しております。本学系においても、男女共同参画社会基本法に則り、教員の公募に際し積極的に女性研究者の応募および採用を推進しており、平成29年4月1日付けで教授職が1名増えました。

医師、看護師や保健師などの医療資格の取得を目指す学生が多いこともあり、学部・大学院生においても高い女子学生の割合を維持しております。先日、学系として研究者に対する相談支援体制状況に関するアンケートがありましたが、残念ながら医学系として組織的な相談支援体制は組んでおりません。もともと女性教員も多いことから、比較的すぐ相談できる環境があることも理由の一つかと思われます。しかしながら、身近過ぎるゆえに簡単には相談できないような問題を抱えている学生・女性研究者も潜在的にはいるかと思われますので、工学部の先進的な取り組みなども参考にしながら、医学系においても研究者の相談支援体制づくりをめざしたいと思います。

医学系のある桜ヶ丘キャンパス内には、さくらっ子保育園(収容人数51名)が設置されており、育児期にある女性職員をサポートする環境があります。また本学では、育児・介護期等にある女性研究者を支援する研究支援員制度があり、医学系では3名が利用しております。女性教員の数を考えると、もっと利用者が多くても良い印象を受けておりますので、広く周知したいと思っております。本原稿を書いている間に、九州大学において研究者の夫婦と一緒に正規雇用する「配偶者帯同雇用制度」を始めたというニュースを聞きました。研究者を取り巻く環境が年々厳しくなっていく中、私どもも新たな取り組みの模索を続ける必要があると感じております。

執筆者：男女共同参画推進センター委員 郡山 千早 教授(医学系)

Information <今後の予定>

- ◆研究支援員制度第2期申請受付中 締切日:平成29年 8月23日
*学内研究者対象詳細は当センターHPでご確認ください。
- ◆「学生のための男女共同参画ワールド・カフェ」 平成29年 8月 9日
- ◆オープンキャンパス企画「女子大学院生に聞いてみよう!」 「～研究、キャンパスライフ、進路選択～」 平成29年 8月19日
- ◆平成29年度男女共同参画トップセミナー 平成29年 9月14日
- ◆第9回九州・沖縄アイランド女性研究者支援シンポジウム 平成29年 9月25日
- ◆スキルアップセミナー(英語論文作成) 平成29年10月26日
- ◆女子中高生のための科学体験塾 11月土曜開催予定
- ◆キャリア形成セミナー 年内開催予定

■女性研究者在籍状況 (H29/7/1現在)

平成29年7月1日現在 人数 (比率)			
221人 (18.8%)			
全体	専任教員	201人 (17.6%)	
		自然科学系分野	130人 (15.3%)
		理工農系分野	37人 (9.7%)

*自然科学系：理学系、工学系、農学系(農・水・獣)、医・歯・薬系